

# 柏原市の財政状況について ～令和6年度決算～

(改訂版)

柏原市 財務部 財政課

柏原市公認キャラクター  
かしびょん



## もくじ

財政とは	2
決算（一般会計）について	3
歳入（一般会計）について	4
歳出（一般会計）について（性質別）	5
一人あたりの歳入・歳出について	6
一人あたりの歳入 近隣市との比較について	7
一人あたりの歳出 近隣市との比較について	8
令和6年度の主な施策について	9
歳入歳出の推移について	11
地方債の残高について	12
基金の残高について	13
財政指数について	14
今後の財政見通しについて	15
これからの柏原市について	16

# 財政とは

## ●「財政」について

「財政」という言葉を一言で表すと、「お金のやりくり」と言うことができます。

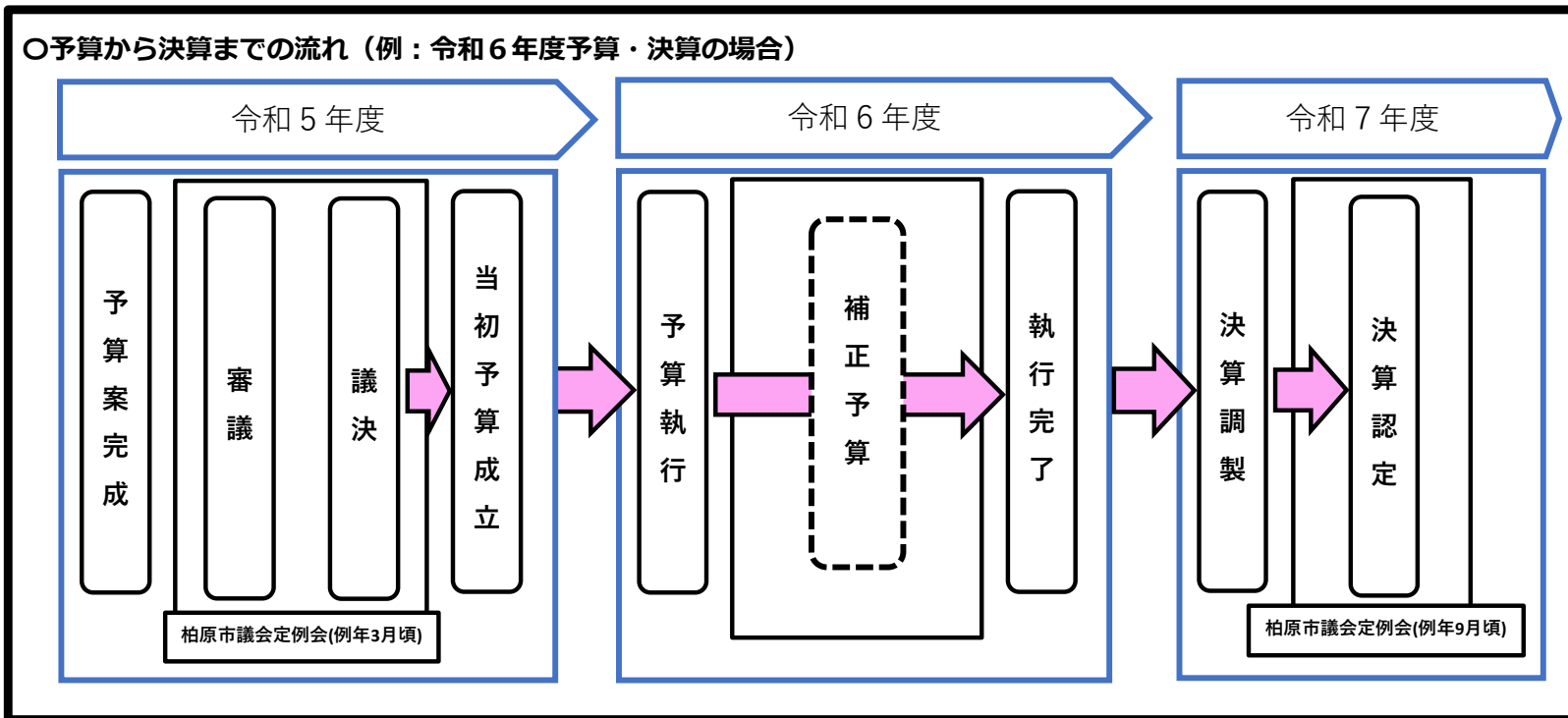
皆様のご家庭が、毎月の給料で食費や光熱水費、学費、ローンなどを支払って生活しているように、市では皆様に納めていただいた税金などを集めて管理し、学校や図書館などの運営、子育て、介護、障がい者の支援、道路や下水道の維持管理、ごみの回収など、様々な行政サービスを行っています。

## ●「予算」と「決算」について

「予算」とは、行政サービスを行うためのお金のやりくりの「計画」を意味し、4月～3月までの1年間の税金などの収入額を予測し、その収入額に見合ったお金の使い道を決めます。

「決算」とは、4月～3月までのお金のやりくりをした「結果」と言えます。

### ○予算から決算までの流れ（例：令和6年度予算・決算の場合）



次のページで柏原市の決算について見ていきましょう。

## 令和6年度決算

令和6年度の決算は、歳入、歳出ともに前年度から増加しました。

歳入総額：292億819万円（前年度比＋6億774万円）

歳出総額：291億4,496万円（前年度比＋6億39万円）

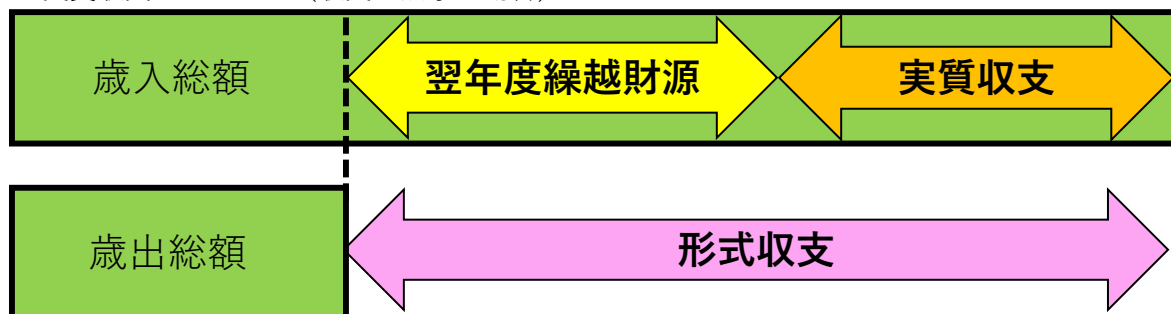
形式収支：（歳入総額－歳出総額）

292億819万円－291億4,496万円＝6,323万円（前年度比＋735万円）

実質収支：（形式収支－翌年度繰越財源）

6,323万円－4,248万円＝2,075万円（前年度比＋1,047万円）

○実質収支のイメージ（収支が黒字の場合）

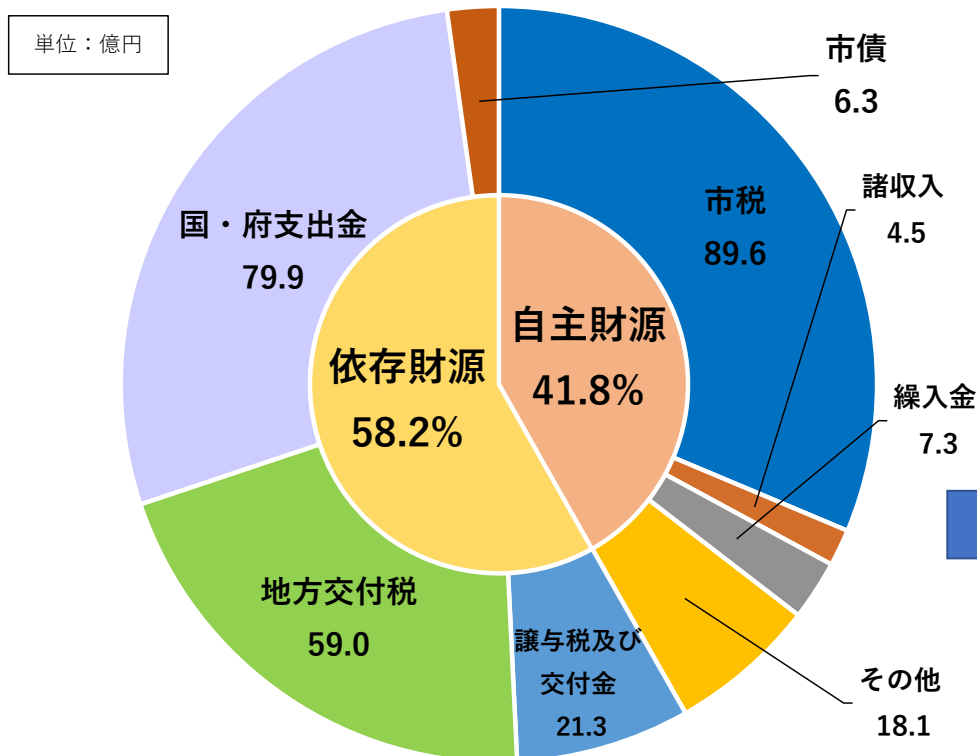


翌年度繰越財源は、翌年度に繰り越した事業に充てる財源になります。  
次のページで歳入・歳出の詳しい内訳を見ていきましょう。

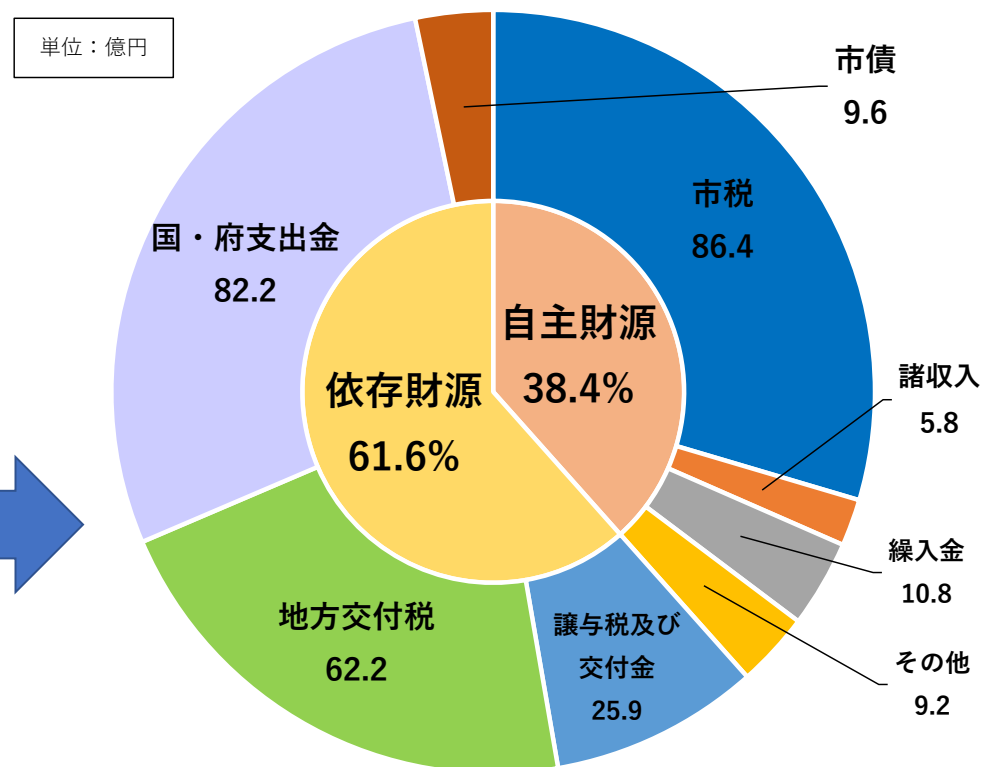


# 歳入（一般会計）について

令和5年度歳入総額：286億45万円



令和6年度歳入総額：292億819万円



## 用語の解説

### 「自主財源」と「依存財源」について

- 自主財源  
 税金など、市が自主的に収入を確保できる財源
- 依存財源  
 国や府の基準に基づき配分される財源で、自主的に収入を確保できない財源

### ○主な増加項目

**譲与税及び交付金**：地方特例交付金（定額減税減収補填分）の増などにより  
 +4億6,074万

**市債**：小学校屋内運動場空調設備設置事業債などにより+3億3,576万円

### ○主な減少項目

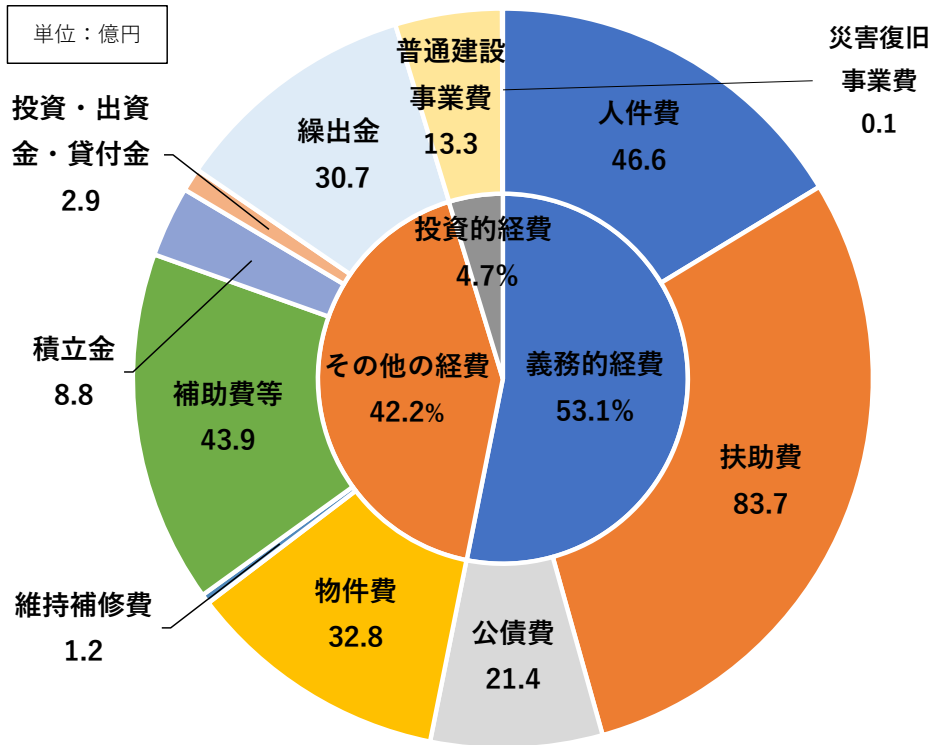
**市税**：個人市民税（定額減税分）や固定資産税の減などにより△3億1,824万円

**その他**：繰越金の減などにより△8億9,649万円

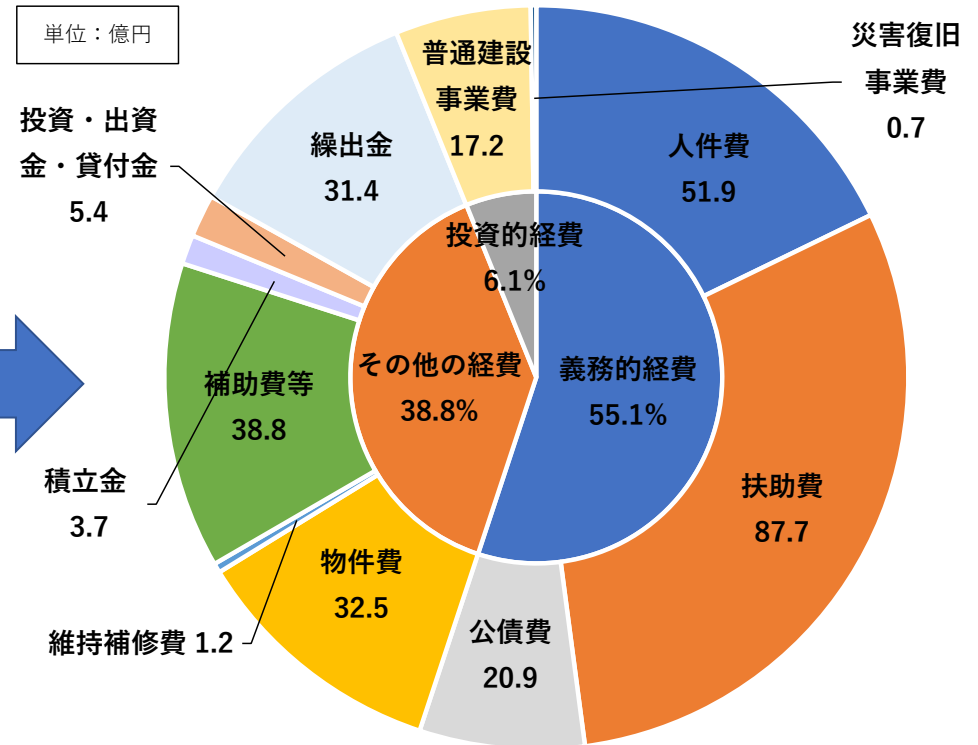
# 歳出（一般会計）について（性質別）

※性質別＝経済的な性質でお金の使い道を区分した歳出です。

令和5年度歳出総額：285億4,457万円



令和6年度歳出総額：291億4,496万円



## 用語の解説

### 「義務的経費」について

「義務的経費」とは、その支出が義務付けられているもので、市の裁量で削減することが難しい経費のことであり、人件費・扶助費・公債費があてはまります。義務的経費の割合が高いほど、自由に使える経費が限定されることになるため、財政的なゆとりが少なくなります。

### ○主な増加項目

- 人件費**：会計年度任用職員に対する勤勉手当などの増により+5億2,910万円
- 扶助費**：障害者施策関係費などの増により+3億9,469万円
- 普通建設事業費**：小中学校施設整備事業費などの増により+3億8,338万円

### ○主な減少項目

- 補助費等**：下水道事業会計繰出金の減などにより△5億1,137万円
- 積立金**：財政調整基金への積立の減により△5億1,013万円

# 一人あたりの歳入・歳出について

令和6年度の決算額を市民一人あたりに換算すると以下のとおりです。



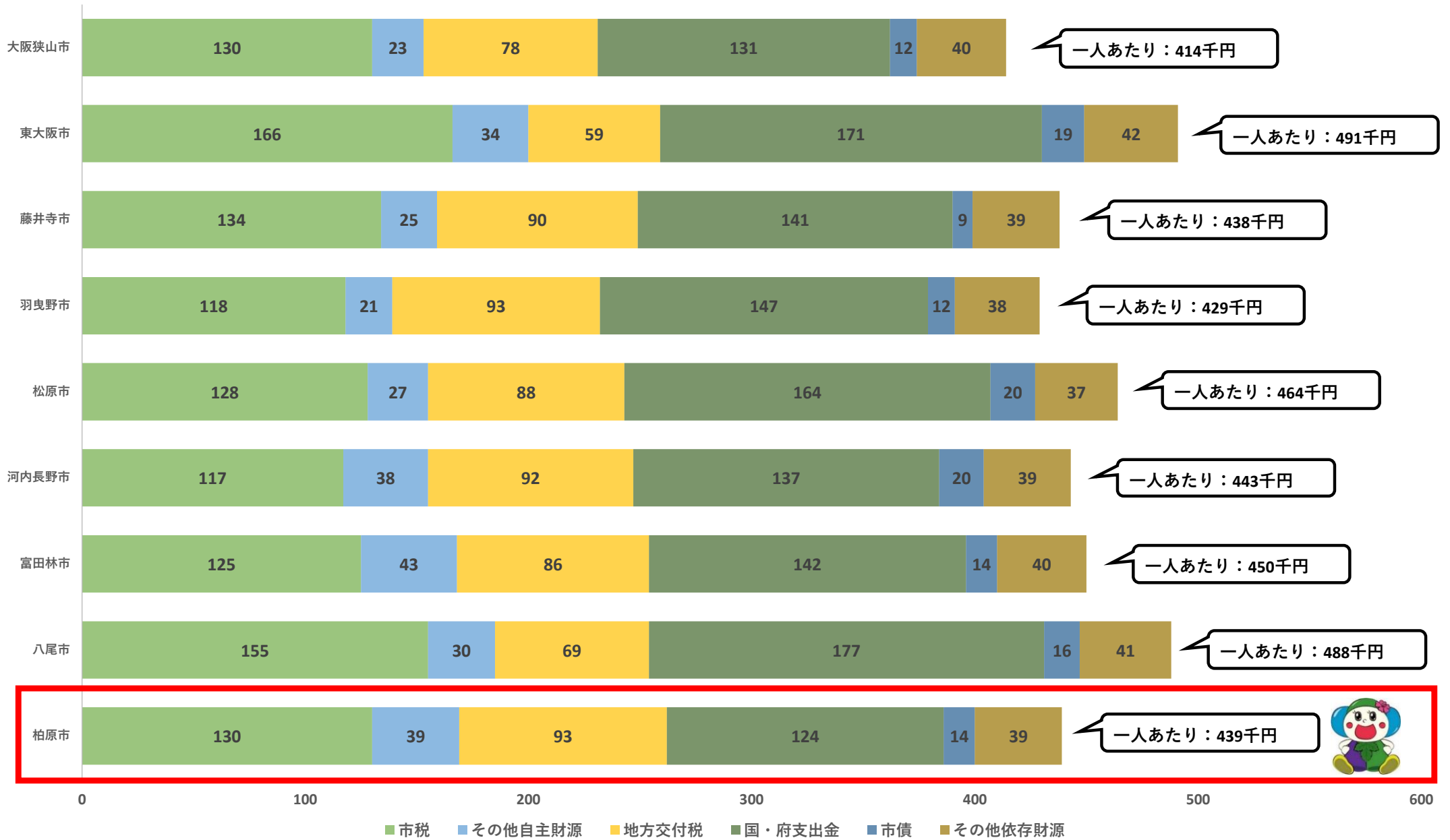
## 一人あたりの歳入

区分	家計に例えると…	決算額 (億円)	一人あたり (円)	割合
【市税】	給料	86.4	130,226	29.6%
【諸収入】	パート収入	5.8	8,764	2.0%
【繰入金】	貯金の 取り崩し	10.8	16,308	3.7%
【その他】 財産収入 など	駐車場収入 など	9.2	13,829	3.1%
【譲与税及び交付金】		25.9	39,042	8.8%
【地方交付税】	助成金	62.2	93,661	21.3%
【国・府支出金】		82.2	123,954	28.2%
【市債】	銀行借入	9.6	14,496	3.3%

## 一人あたりの歳出

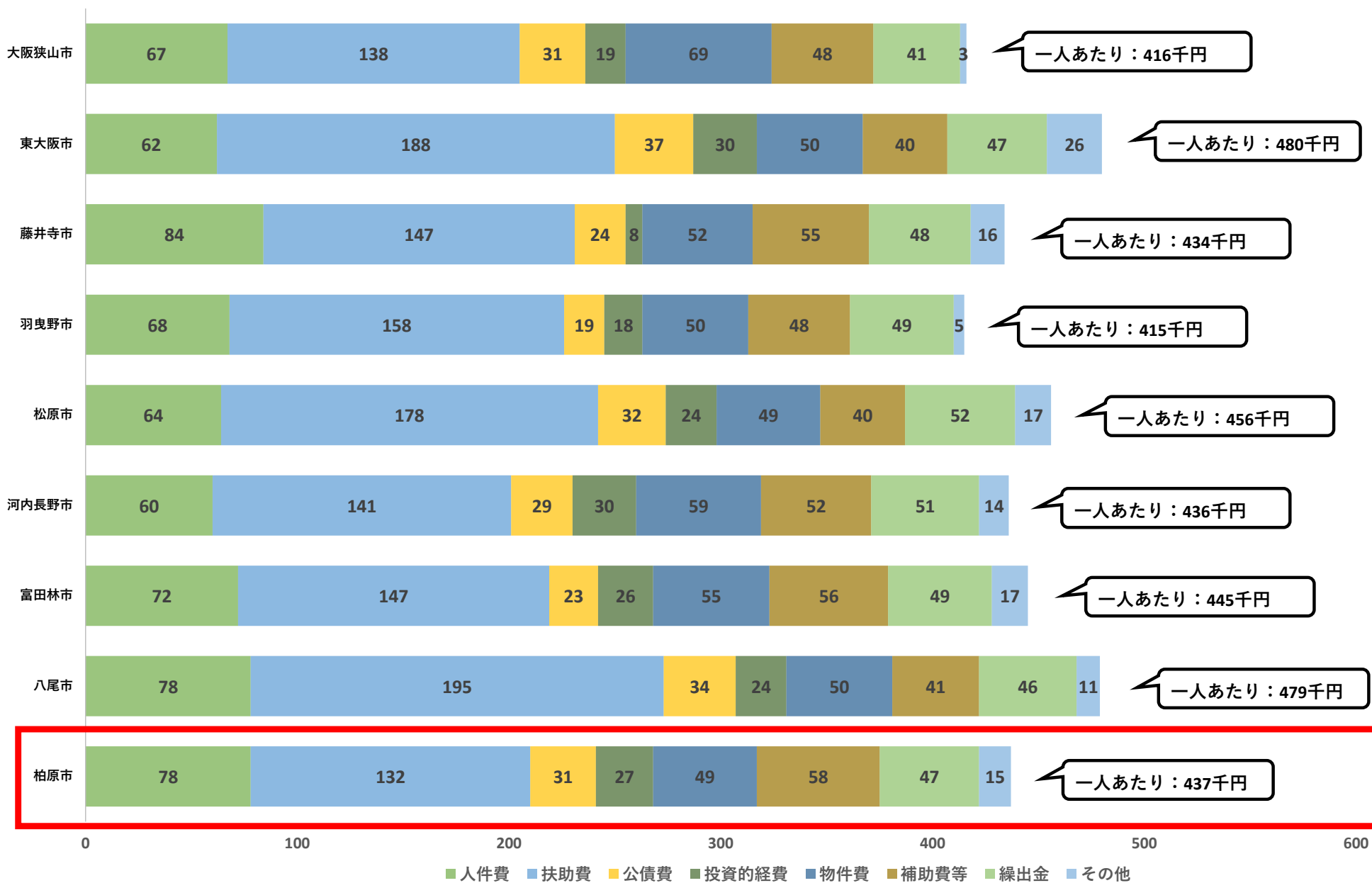
区分	家計に例えると…	決算額 (億円)	一人あたり (円)	割合
【人件費】	食費	51.9	78,199	17.8%
【扶助費】	医療費	87.7	132,161	30.1%
【公債費】	ローンの返済	20.9	31,602	7.2%
【物件費】	光熱水費・ 被服費など	32.5	48,971	11.2%
【維持補修費】	家の補修 費用	1.2	1,806	0.4%
【補助費等】	自治会費 など	38.8	58,529	13.3%
【その他】 繰出金・投資・出資金・ 貸付金・積立金	○仕送り ○融資 ○貯金	40.5	61,138	13.9%
【投資的経費】	家の増改築 費用	17.9	26,921	6.1%

# 一人あたりの歳入 近隣市との比較について



※令和7年1月1日時点の人口で算出しています。

## 一人あたりの歳出 近隣市との比較について



※令和7年1月1日時点の人口で算出しています。

# 令和6年度の主な施策について①

## 子育てを応援する環境づくり

### 中学校給食費の無償化

子育て支援策の一環として、市内全6校の生徒の保護者を対象に給食費の全額を補助しました。

【決算額】  
7,757万円



### 小学校給食費物価高騰等 対策補助事業

食材価格上昇の影響により、令和6年4月分から給食費が値上げされた市内全9校の児童の保護者を対象に値上げ分を補助しました。

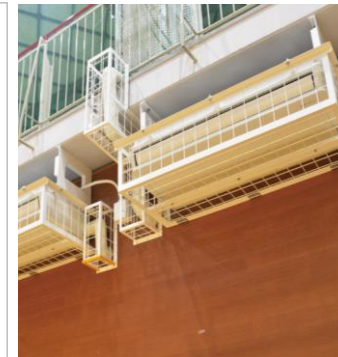
【決算額】  
1,252万円



### 小学校体育館への空調設備の設置

熱中症対策と避難所の環境改善のため、市内公立小学校全9校中5校について空調設備を設置し、4校について工事設計を行いました。

【決算額】  
4億3,553万円



## 健やかな暮らしをサポート

### 公園施設長寿命化事業

安全で快適な公園利用を図るため、市内公園の老朽化した各施設を順次改築・更新しました。

【決算額】  
3,028万円



### がん患者医療用補正具購入費 助成金の新設

医療用ウィッグおよび乳房補正具の購入費用の一部を助成しました。

【決算額】  
29万円



### 高齢者補聴器購入費 助成金の新設

非課税世帯に属する加齢性難聴の診断を受けた65歳以上の高齢者を対象に、補聴器の購入費用の一部を助成しました。

【決算額】  
43万円



## 令和6年度の主な施策について②

### デジタルを活用した市民サービスの向上と業務効率化

#### 放課後児童会 児童支援システムの導入

保護者が児童の入退室状況を確認することなどができるシステムを導入しました。

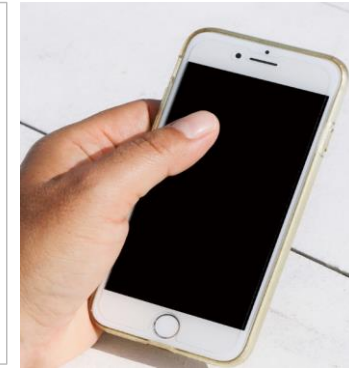
【決算額】  
171万円



#### 公立認定こども園等への ICT導入

園児の出席登録などができる登降園管理システムの導入園を拡充しました。

【決算額】  
337万円



#### 行かない窓口 (オンライン決済の導入)

電子申請に加えてオンライン決済を導入し、市役所に行かない窓口サービスを拡充しました。

【決算額】  
171万円



#### 書かない窓口

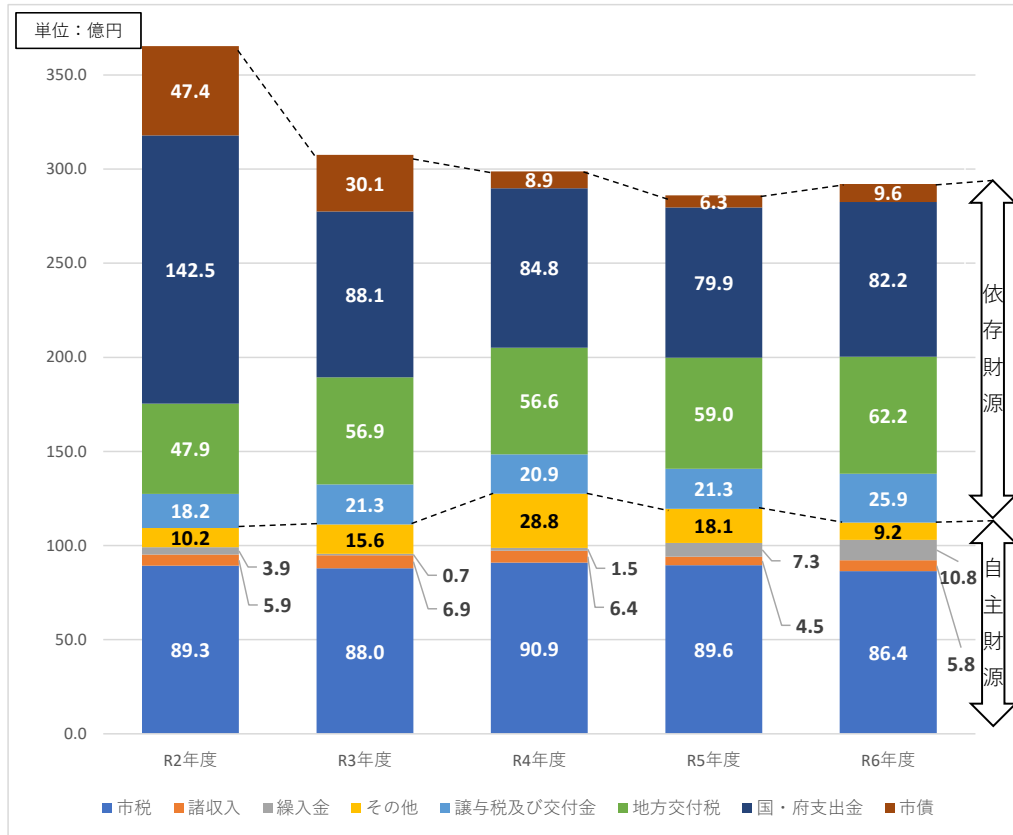
マイナンバーカードまたは免許証の情報を読み取り、基本情報を申請書に自動転記する機器を導入し、窓口での負担を軽減しました。

【決算額】  
371万円

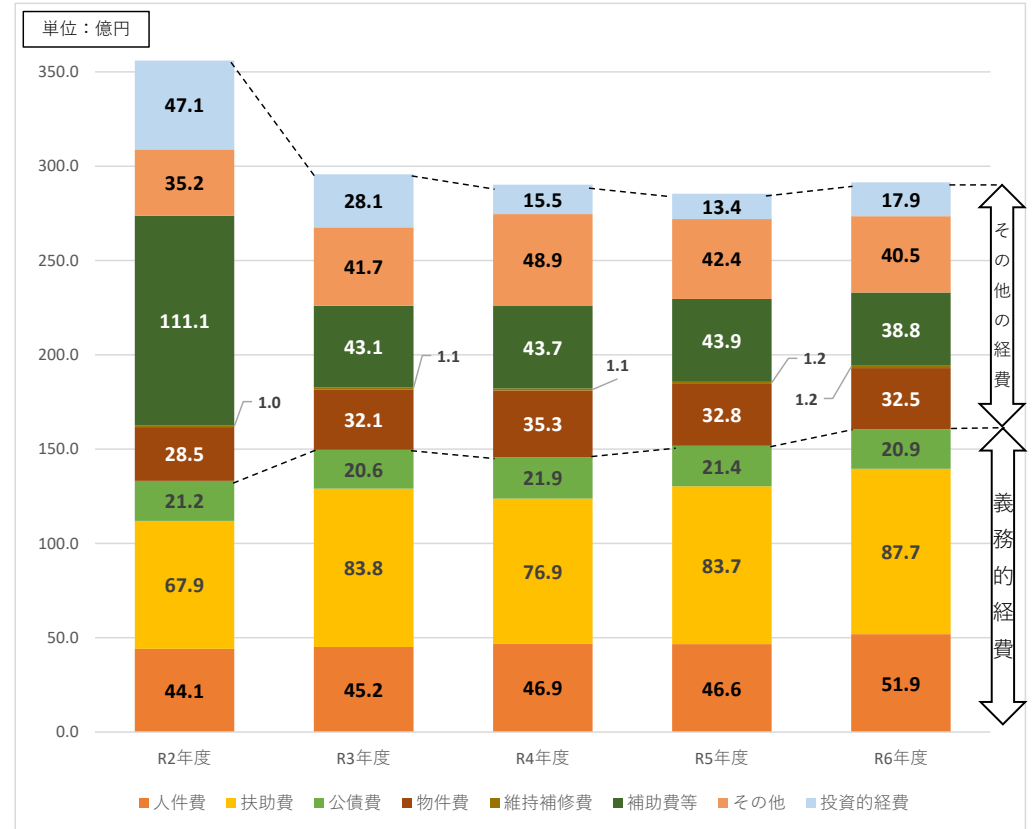


# 歳入歳出の推移について

歳入額の推移



歳出額の推移



## ○歳入額の推移について

依存財源は、高齢化の進展などに伴い社会保障関係費が継続的に増加していることから、国・府支出金が増加し、同様の理由や物価高騰・賃金上昇などの影響により、地方交付税も増加しています。

自主財源は、定額減税に伴う市税収入の減や繰越金の減などにより、減少しています。そのため、相対的な割合は低い水準となっています。

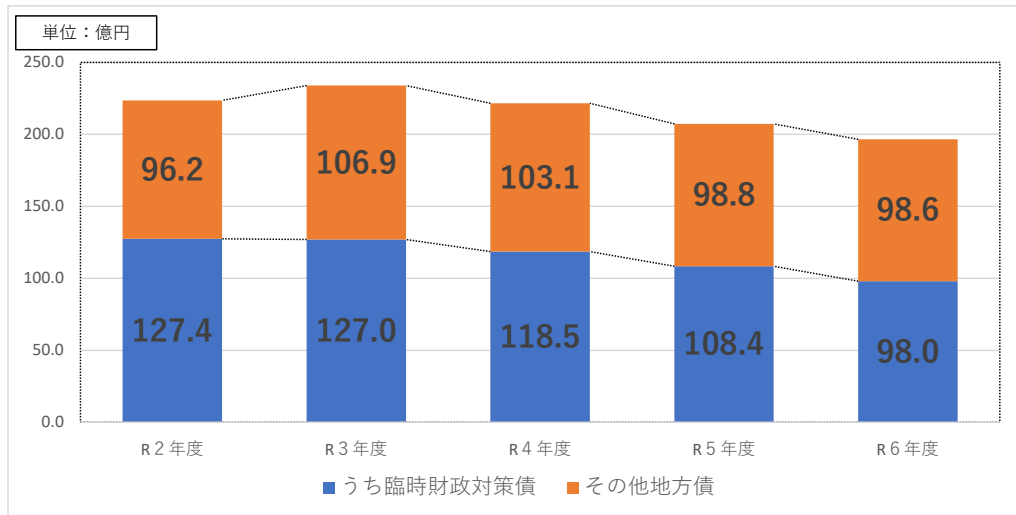
## ○歳出額の推移について

義務的経費は、賃金上昇による人件費の増や扶助費の増により増加が続いています。

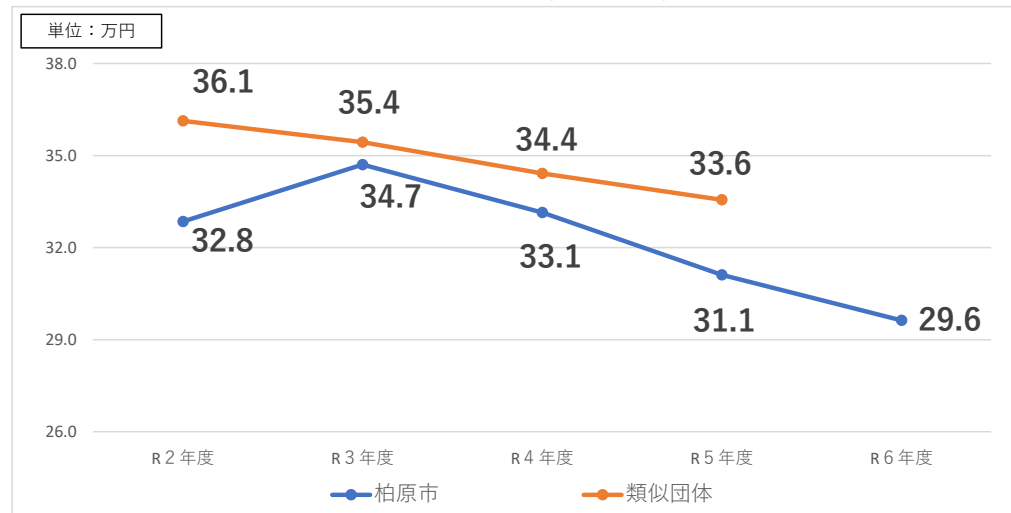
その他の経費は、投資的経費が小中学校施設整備事業費や道路関係事業費などにより増加しているものの、それ以外は減少しています。

# 地方債の残高について

地方債残高の推移



地方債残高の推移（一人あたり）



※現在、令和6年度類似団体数値が総務省から公表されていないため、令和5年度までの数値と比較しています。

## ○地方債残高の推移について

庁舎や認定こども園の建設などの大規模事業により、令和3年度までは増加傾向となっていました。その後は事業内容や時期の精査などを行い、地方債の新規発行を抑制していることや、過去に借り入れた地方債の償還が進んでいることから、地方債残高は減少しています。

## ○類似団体との比較について

令和5年度末時点で、市民一人当たりの地方債残高は31.1万円となり、類似団体より2.5万円少なくなっています。

令和3年度までは、大規模事業による地方債の発行が増えたことで、類似団体との差は縮まる傾向でしたが、その後は地方債の新規発行を抑制していることにより、類似団体同様に減少傾向となっています。

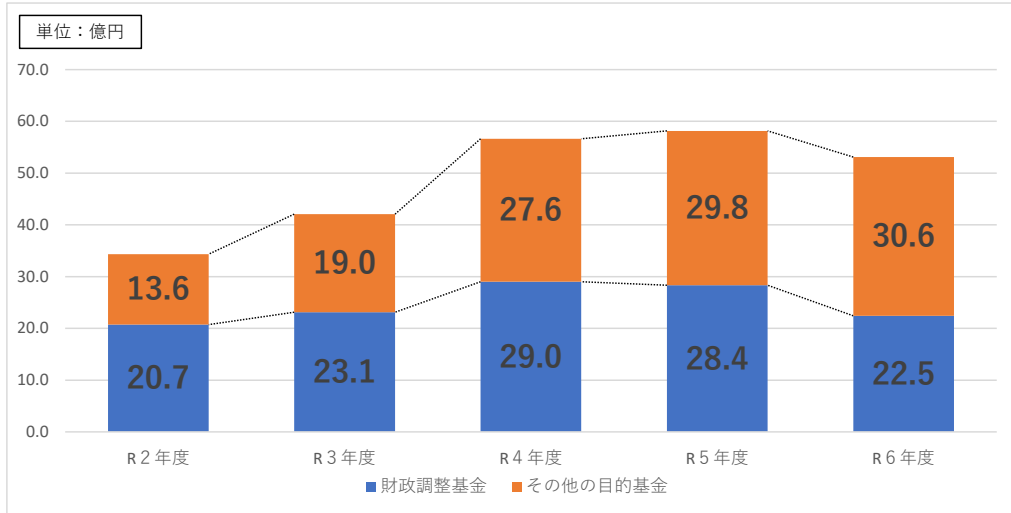
「地方債」は市の借金のことだね。柏原市は借金をしないとイケないくらいお金がなくて大変な状況なのかな。



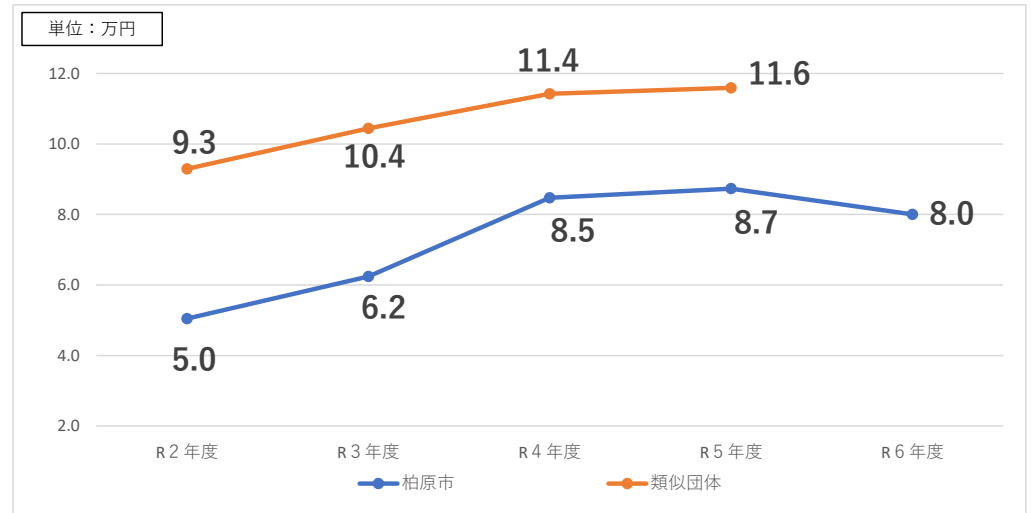
たしかに借金ですが、図書館や公園などの公共施設の場合、建設から数十年間にわたる利用期間があることから、世代間における負担の平準化という考え方により、地方債を借り入れ、決められた期間の中で毎年一定額を返済していくことにしています。ただ、借金であることには変わりないため、地方債の発行にあたっては将来世代の過度な負担にならないかといったことを考慮した上で、計画的に借入を行う必要があります。

# 基金の残高について

基金残高の推移



基金残高の推移（一人あたり）



※現在、令和6年度類似団体数値が総務省から公表されていないため、令和5年度までの数値と比較しています。

## ○基金残高の推移について

令和3年度以降は、前年度決算による剰余金が発生し、それを積み立てることにより、基金残高が増加していました。

しかし、令和5年度に財源不足を補てんするため基金残高の一部を取り崩した結果、基金残高は微増にとどまり、令和6年度も財源不足を補てんするため、財政調整基金を一部取り崩した結果、基金残高は大幅に減少しています。

## ○類似団体との比較について

令和5年度末時点で、市民一人当たりの基金残高は8.7万円となり、類似団体より2.9万円少なくなっています。

令和3年度以降は、決算剰余金等の基金積立を行ったことにより、基金残高は増加していますが、類似団体においても、同様に基金残高が増加していることから、その差はあまり縮まっていません。

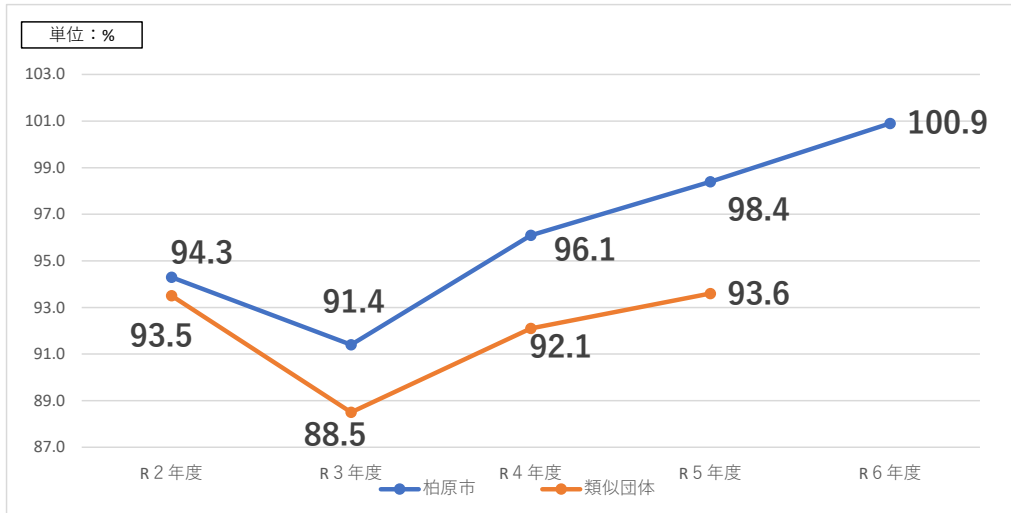
「基金」は市の貯金のことだね。柏原市の状況を見ると他の市よりも貯金額が少ないみたいだけど大丈夫なのかな。



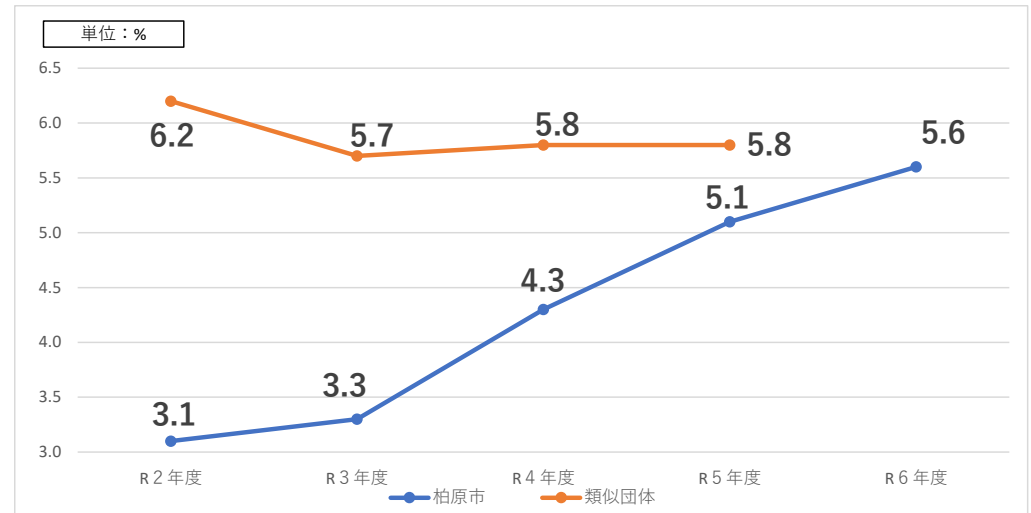
市の貯金は、財源不足や災害の発生といった不測の事態に備えて、一定の額を積み立てる必要があり、今は一般的とされている基準を超える貯金額になっています。ただ、令和6年度は令和5年度と同様に貯金の取り崩しも行っているため、これからは貯金額を減らさないような収支状況としていく必要があります。

# 財政指数について

経常収支比率の推移



実質公債費比率の推移



※現在、令和6年度類似団体数値が総務省から公表されていないため、令和5年度までの数値で比較しています。

## 用語の解説

○**経常収支比率**・・・毎年度継続して収入される市税などの経常的収入が、毎年度決まって支出される人件費、扶助費などの経常的支出にどれだけ充当されたかを示す指標です。

○**実質公債費比率**・・・地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。どちらの比率も数値が低いほど財政に余裕があるといえます。

## ○経常収支比率の推移について

令和3年度までは改善傾向となっていました。令和4年度以降は経常的支出となる社会保障関係費の増加などに伴い、急激に悪化しています。

令和6年度は、経常的収入（市税等）が増となったものの、経常的支出（扶助費等）の増が大きく上回ったため、収支両面における数値の悪化により、比率も悪化しています。

## ○実質公債費比率の推移について

令和3年度以降は、庁舎建設などの大規模事業により発行した地方債の償還が本格化したことに伴い、急激に悪化しています。

## ○類似団体との比較について

令和5年度は98.4%となっており、類似団体より4.8%高くなっています。

令和2年度は、類似団体に最も近い数値となり、それ以降の推移は類似しているものの、差は年々大きくなっています。

## ○類似団体との比較について

令和5年度は5.1%となっており、類似団体より0.7%低くなっています。

令和2年度までは、類似団体より低い状態で推移していましたが、令和3年度以降は、地方債の償還額の増加などにより比率が上昇し、差が小さくなっています。

## 今後の財政見通しについて



本市の今後の財政状況について、令和6年度決算額をもとに推計しています。今後も社会保障関係費や人件費の増加、物価上昇が続くと想定されることから、令和7年度以降については、収支不足の発生を見込んでいます。

区分	決 算	今 後 の 見 通 し					(単位：億円)
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	
市税	86.4	91.0	91.7	92.0	91.7	91.4	
地方交付税(臨財債含む)	62.9	61.0	61.7	62.5	64.0	64.4	
交付金・地方譲与税等	25.9	23.2	23.7	24.1	24.1	24.2	
国・府支出金	82.2	90.9	94.2	95.1	98.2	98.2	
地方債(臨財債除く)	8.9	23.4	20.5	15.6	14.1	14.2	
その他	25.8	14.6	14.4	14.4	14.4	14.4	
歳入合計 (A)	292.1	304.1	306.2	303.7	306.5	306.8	
人件費	51.9	53.4	54.9	55.7	56.4	56.4	
扶助費	87.7	91.5	95.6	100.1	104.8	104.8	
公債費	20.9	19.4	20.4	21.8	22.0	21.9	
建設事業費(災害復旧含む)	17.9	43.1	40.4	32.2	29.8	30.0	
その他	113.0	111.5	112.3	112.8	113.3	113.9	
歳出合計 (B)	291.4	318.9	323.6	322.6	326.3	327.0	
収支合計 (A) - (B)	0.7	▲ 14.8	▲ 17.4	▲ 18.9	▲ 19.8	▲ 20.2	

※令和6年度の数値は決算額であり、令和7年度以降の数値には含まれていない基金繰入金が含まれています。

## これからの柏原市について

令和6年度の状況は、いろんな数字から、前の年より悪くなっているのは分かるけれど、収支状況は黒字だし、物価や賃金が上がっているから、市に入る税金も増えて、これからは問題なくなるんじゃないの。



令和6年度については、財政調整基金という市の貯金から6億円を取り崩して、収支状況を黒字にしているので、実際には赤字だったと言えます。

そして、これからの財政見通しは、市税などの収入の増加も想定されますが、それ以上に社会保障関係費や人件費の増加、物価上昇による様々な経費の増加が想定されますので、支出が収入を上回って、収支不足の状況が続くと見込んでいます。

本当だ。「今後の財政見通し」のページを見ると、収支合計のところはずっとマイナスで、お金が足りないことになっているけど、大丈夫なのかな？  
市の貯金だって、ずっとあるわけじゃないでしょう。



「今後の財政見通し」にあるとおり、毎年収支不足が発生すると、市の貯金はどんどん減ってしまいます。  
現在見込まれる収支不足の全てを財政調整基金で賄うとなると、令和8年度で財政調整基金はなくなってしまうことになります。

ええっ！大変じゃない。貯金が無くなる前に何とかできないの？



## これからの柏原市について



この状況を改善するためには、収入を増やして、支出を減らす必要があります。  
そのためには、収入に関して、受益者負担の適正化や、新しい収入源を探す必要があります。  
そして、支出に関しても、いま行っている事業の費用や内容を見直すことに加えて、事業そのものの見直しも考える必要があります。

じゃあ、いま市がやっていることってあるの？



この危機的な状況から立ち直り、効率的な行財政運営を確立するため、令和7年4月に行財政改革推進本部を設置して、公共施設に関すること、歳入の確保に関することや経営の改善に関することなどについて、検討を進めています。

なるほど。  
とにかく、少しでも早く収入を増やして、支出を減らす取組を行って、収支不足をなくすようにしないとイケないね。



これまで見てきたように、市の財政状況はこれまで以上に厳しい状況になっています。  
収支状況改善に向けて、今後様々な取組を早急に進めていきますので、市民の皆様におかれましてもご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。